

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4792700025		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホームクローバー		
所在地	沖縄県中頭郡西原町字翁長591番地 前田産業ビル2階		
自己評価作成日	平成28年 2月26日	評価結果市町村受理日	平成28年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=47
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成28年 3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームクローバーは平成27年3月に開所した。まだ新しい事業所です。職員は入居者様の一人ひとりの尊厳を大切に、入居者様の意向、要望など確認を行いながら自分らしく生活が過ごせるようしえんしております。また、法人内で合同研修会、委員会活動を行いながらケアの向上に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設一年目の事業所で、7階建ての2階部分にあり、3階からは出入り口の異なるマンションとなっている。事業所では認知症高齢者をありのまま受け入れることや、主体制をもって自分らしく過ごしていただけるように、利用者のこれまでの暮らしや現状を把握し支援している。暮らしの継続支援で、仏壇を持ち込む方の毎朝の供茶やお供え物の買い物支援、利用者の習慣である就寝時のお祈りを共に支え見守ることで安心・安眠につながるよう支援している。入浴拒否の事例では、入浴後の「ありがとう」の言葉を聞き、利用者の思いや満足感を把握し、その後の支援に繋げている。食事は3食事業所で調理し、栄養面のバランス等を法人の栄養士が確認している。職員はレシピを見て研究したり、利用者に教えてもらうなど利用者の力の発揮にも繋げている。医療では主治医や訪問診療医と日頃から相談や情報交換がされ、医療連携を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 28年 5月 13日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と、事業所としての理念を職員の目につきやすい場所に掲示してこれらの理念を意識したケアを行えるようにしている	理念は開設前に法人の代表者や課長、管理者等で作成している。理念を掲示しミーティングで共有を図ってきたが実践に反映されていない。開設一年を経て、利用者の現状に合った理念につくりかえていくことを検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流に関してはまだ上手く取り組んで行えていない状況である。地域での活動など確認行いながら交流する機会を構築していきたいと考えております。	自治会での事業所説明や、隣接するマンション住民への訪問挨拶、他事業所からの情報提供等を得ていたが、地域交流に繋げることができなかった。社会福祉協議会からの依頼で、中高生のボランティアを受け入れている。	自治会に加入し、地域活動を通して利用者と地域との交流を広げていくことや、保育園が階下に開設されるので、園児との交流も積極的に働きかけたいとしている。今後に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サービス利用目的以外の見学者や入居者の家族以外の来客様へもグループホームの役割等を説明し、そのサービスの浸透に務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での皆様の意見、要望など伺いながら今後の課題や改善を職員ミーティングなどで報告行いサービス向上につなげていく	運営推進会議の委員への、委嘱状の交付や会議の目的等の読み合わせを行っている。会議は利用者や家族、地域、行政が参加して定期的開催され、運営状況や活動報告、委員からの意見や質問、アドバイス等がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の出席をお願いし、現在の活動状況報告を行い率直な意見、助言などを頂き、課題・解決に向けての協力を頂いております。	町担当者とは日頃から電話相談や窓口訪問、運営推進会議等で助言を得ている。その他、研修会の案内、ケアプランや介護記録の点検、助言をもらうなど協力関係を築いている。実践者研修案内にて職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の人権を第一に考え身体拘束の内容を正しく理解し、適切な支援が行えるように務めています。	法人に身体拘束委員会が設置され、毎月の会議に職員が参加し、ヒヤリハットや事故報告がされ検討会が行われている。家族には契約時にリスク等について説明している。夜間のみ手作りセンサーを使い転倒回避に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止に関する法人内の研修に参加し防止に務めている。		

沖縄県(グループホーム クローバー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の研修(法人内)について権利擁護等に関する研修が行われていない状況で外部研修なども含めた機会を設けていきたいと思います		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終了の際は、パンフレット等の書類を用いて丁寧に説明行っております。入居者、家族様の質問などに関してわかりやすい言葉で説明行い気軽に会話ができる雰囲気心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にミーティングを開催し職員間で業務中に感じる疑問、改善点などについて話し合い決定事項などに関して業務連絡・申し送りノートを活用し、周知徹底及び統一したケアに繋げている。	家族の面会時や運営推進会議等で聞く機会があり、家族の職員体制不安の声には、法人からの応援で一時的に対応したことがある。利用者の「家に帰る」の声には、家族の介護負担も考え時間調整等を行い、外出する機会を作った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回、法人内で運営会議を開催し職員が業務中に感じる疑問、改善点などに関して話し合っている。決定事項は会議録・業務連絡ノートを活用し、周知徹底し、業務に反映している。	法人内に各種委員会が設置され、職員は希望の委員会に所属している。職員からの意見や提案はミーティング等で聞く機会があり、食器類や備品の購入、外出調整にリフト車を借りている。残業手当待遇改善も図っている。年一回、法人管理職との面談や夜勤者対象の健康診断も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間で意見交換しやすいよう職員関係を調整、話し合いする機会を設けたりして、気持ち良く働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内の委員会などの研修会を開催し、職員の知識・技術の向上に努めている。また、外部の研修にも職員が積極的に参加できるよう呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに参加した際には同業者との交流を行っている。		

沖縄県(グループホーム クローバー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークを行いながら入居様の意向及び気持ちを尊重し、要望など確認を行いその人らしく生活が過ごせるように務める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に現在の状況確認を行いながら要望、不安感などに対して傾聴しながら対応行っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に合わせ、要望に耳をかたむけながら、本人が必要としている支援を提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内での生活で入居者様が何を望み何お不安なのかを確認、感じ、必要に応じて共に行動し共感しながら支え合うよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、入居様の状況報告を面会時、電話等で報告行っております。日常生活で変化が見られてさいは電話などで報告行いながら関係を築いております		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会は時々あり日々の生活を紹介しながら関係が途切れないよう支援している。アルバム、DVDなどを見ながら会話の時間を設けている	アセスメントやケアチェック表の社会活動項目に情報収集を記録している。勤めていた場所への散歩、友人、知人の面会、愛読書や居室の装飾品等から関係性の把握はしているが、継続支援が進んでいない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ一人にならないように、職員が介入し、入居者同士が良い関係作りが出来るように支援している。		

沖縄県(グループホーム クローバー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の時点での退居者は1名のみ。退居後、ご家族様が何度か来所して下さいました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の要望、思いなどの言葉を職員間で共有して支援に反映している。職員側も思いを引き出す質問を心がけをしながら対応する。	仏壇のある暮らしの方は、お供え物の買い物を一緒に行き、夜間、パットの種類で不安になる方には希望するものを選んでもらう。就寝時の手順が決まっている方は職員が見守り、それぞれの思いや暮らし方を把握し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント確認を行いながら一人ひとりの状態を把握するように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で情報を共有することで前提に申し送り、記録などを確認し把握に努めている。心身状態に関しては主治医と相談確認し指示等から把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成及び見直しには入居者、家族様の希望及び要望など確認し、定期的に見直しを行っている。介護職員の意見を反映しながらケアマネが介護計画を作成している。	モニタリングやカンファレンスは月1回、アセスメントも定期的に行っている。サービス担当者会議で利用者や家族の意向を把握し計画作成しているが、その人らしい目標や具体的な支援が記されず、画一的な計画である。また、目標、ケア、記録が連動せず、計画が職員に共有されていない。	介護計画の目標やサービスの具体的な支援方法を職員間で共有し、その人らしい生活の実現に向けた計画、実施に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録にその日の様子や状況、気づき等を記入し、情報共に努めると共に介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人及び家族様から要望などに関してその都度状況を確認し、支援している。外出、受診等に関して出来る限り要望に沿った対応をしております。		

沖縄県(グループホーム クローバー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に運営推進会議で地域の民生委員、自治会長、介護支援課、社協、包括センターの方々に参加してもらい情報交流を行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との情報交換の連携に努め、指示にて対応を行っております。	かかりつけ医の継続や家族の要望で、協力医の訪問診療で受診支援している。受診は、家族対応で管理者も同行している。訪問診療時は事前に状況をFAXで提供し、結果や薬の変更等は診療ノートに記録して共用している。家族には、電話等で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	開設当初は職員として看護師おりましたが、現状は法人内の看護師に相談、主治医確認行いながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話、FAXなどで状態確認行いながら情報交換などの確認行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状では事例は無いが、ホーム内でも方針、支援方法などの確認は必要だと感じている。	看取りに関する指針を作成し、契約時に説明しているが、看護師が退職し現状を家族に説明している。状態変化時には医療機関に繋げるとしている。職員間での重度化や終末期についての研修等は行われていない。法人の看取り委員会に管理者が参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に法人と連携して救急法などの勉強会を開催しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度の昼間・夜間想定避難訓練を来月行う予定しております。	消防署協力の下、昼間想定総合訓練を1回実施している。緊急通報装置、消火器、スプリンクラー等設置されている。階上の住民には防災訓練のお知らせに留まっている。台風時等の発電機は準備しているが備蓄等は準備されていない。	法令で年2回の災害避難訓練が謳われています。利用者、職員が安全に避難できるよう、昼夜想定避難訓練の実施と地域の協力に期待したい。

沖縄県(グループホーム クローバー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切に、一人ひとりに合わせた声かけを行い、不快な思いをすることなく、日々の生活を過ごして頂けるよう心がけている。	利用者一人ひとりに合わせた声かけで呼んでいる。排泄支援ではタオルをかけたり、ドアの外で待つなど、居室での交換時はドアを閉めて行っている。法人内のサービス向上委員会で接遇の話合いがされているが伝達講習には至っていない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの意思を確認しながら、ご本人が出来ること、したいこと等を支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況で一人ひとりの確認をとり本人の意思に沿って支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の意思確認行いながら希望に沿うよう対応している(理美容、衣類)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり頂いたり、味付け、味見などして頂き出来るだけ一緒にして頂くようにしている。	利用者の要望も取り入れ献立は2週間分作成、時々法人の管理栄養士に確認し、3食事業所で調理している。購入は職員が行い、食材の下ごしらえや味見、食器洗いに利用者は参加している。職員も同じ食事を一緒に摂っている。全員で外食することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や嗜好に合わせて支援している。食事摂取量や水分確保に務めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけを行い、職員の方で準備、見守り、介助にて支援行っております。清潔保持に努めております。		

沖縄県(グループホーム クローバー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや身体状況など確認を行いながら対応支援しております。	排泄チェック表でパターンを把握し、トイレでの排泄に努めている。職員は排泄ケア講習会でのオムツの役割や種類、当て方等助言を活かし、本人の好きなパットを統一することで不安や不満の軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況を把握しながら朝食前後の牛乳など飲んで頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日にてグループ分けを行っているが入居者の要望に合わせてながら入浴の支援を行っております。	入浴は週3回を基本とし、利用者の希望に沿って、拒否した場合は無理強いしないで柔軟に対応している。入所時に入浴を拒否していた方が、同性職員を中心に声かけ支援を行い、2、3か月後には「ありがとう」の声が聞かれ、今は入浴が好きになって週4日入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状況及び生活習慣など考慮して安心して休んでもらえるように支援行っております。空調管理などは意向確認の上、職員にて対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し、処方された薬を朝、昼、夕、眠剤など区別し名前確認を行い症状の変化などの確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	包括自立支援プログラムにより、入居者の生活歴を把握し、その人らしく生活していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出予定を立て入居者の希望により外出、ドライブ、買い物、散歩等の支援している。	事業所周辺の散歩や近隣の学校に花見に出かけている。季節のユリ見学や花火、イルミネーション、初詣等に出かけて五感刺激の機会としている。家族の協力で月2回外出する方や買い物や外食にでかけている。	

沖縄県(グループホーム クローバー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理などに関して入居者、家族様の意向を優先に対応しております。買い物などの支援及び管理など行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からも家族様からも電話要望など毎日あります。クリスマスカードを孫に出される入居者に対して支援行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾り付けなど入居者様と職員と一緒に作成し季節を感じられる環境づくりを行っている	リビングにはテーブルの他に畳間とソファを設置し、畳間では洗濯物たみに使われ、ソファは寛ぐ場として人気がある。台所も近く調理の音や匂いで食欲を誘い、見守りやカウンター席の利用者と会話出来る作りとなっている。共有廊下は歩行訓練に活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファ、椅子、畳間など空間を設け一人や仲間で過ごせる環境を整えております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要最低限の備品しか設置しておらず、入居後に入居者、家族様と一緒に確認行いながら対応しております。	ベッドとタンスは備え付けで、寝具類、観葉植物、花、アルバム、愛読書、宗教に関する像、仏壇等が持ち込まれている。配置は家族と一緒にしている。居室での利用者の習慣、こだわりを職員は共有してその人らしく過ごす、安眠できるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLを確認、配慮し、自立支援を心がけ事故などがないう、安全安心な生活が過ごせるよう支援する。		